

PROLOGUE

木二中 学校だより No.34 令和7年1月24日
校長 山元 竜二

木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233
E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>



他者との絆(きずな)を感じる瞬間ってありますか？

今から10年前になりますが、株式会社JCBが2015年7月、全国の20歳から69歳の子どもがいる既婚男女を対象に「かけがえのない毎日」に関する調査をWEB上で実施、その結果概要を見てみると、

◇かけがえのない日常の幸せは？ トップは「家族との食事」

ありふれた日常の、どのようなシーンで“かけがえのない幸せ”を感じるか聞いたところ、最も多かったのは「家族と食事をしているとき」(57.3%)でした。

◇あなたにとってかけがえのない経験とは？ 1位「子どもの誕生」、2位「子育て」

今までの人生で、“かけがえのない経験”だと思うことを聞いたところ、「子どもの誕生」72.4%が7割を超えて最多となり、「子育て」が55.0%で続きました。

◇家族の絆を感じるときは？ 1位「家族揃っての食事」 2位「家族旅行」 3位「家族の記念日」

どのようなときに家族の絆を感じるか聞いたところ、「家族揃って食事をしているとき」40.7%が最多回答、僅差で「家族と旅行に出かけたとき」38.1%が続きました。 以上JCBHPニュースリリースより一部抜粋

人の気持ちは時間とともに変化するようプログラムされているので(私見)、10年前のアンケート結果がそのまま当てはまるかどうかはわかりませんが、3番目の家族との絆に関する設問の回答については、現代においてもそう変わらないのではないかと推察します。むしろ、20歳から69歳ではなく、中学生(子ども)から見た「家族との絆を感じるときは？」の設問があったらどんな回答になるのだろうと興味がわくところ。木二中生の皆さん、どうでしょう？

では、家族ではなく「他者との絆を感じる時」という設問だったらどんな回答が得られるだろう？先輩・後輩、上司・部下、恩師・教え子、同僚、友人(絆を感じるくらいだから親友)…、といろいろな立場があると思います。中学生だと一番身近な存在はきっと友人になりますね。卒業を迎える3年生にとってはそこに「恩師」が入ってくるかもしれません。そしてその絆が、何年経っても色褪せることのないかけがえのないものだとしたらこんな素敵なことはないですよ。

先日の三連休の中日、1月12日(日)に私が以前勤務していた高校の教え子たちがクラス同窓会兼校長就任お祝いの会を東京外苑前にある素敵なフランス料理店で開催してくれました。中には高校卒業以来、25年ぶりに再会する教え子も。中学校から高校まで6年間も一緒だった(中高一貫教育)こともあり、絆も強い。

その高校は、2年生から文理選択し、成績順にクラス分けされる厳しい進学校。成績下位のクラスは、プライドの高い先生方が当たり前のように誰も受け持たがらない(問題が多いから)のですが、そのクラスは文系の最下位クラス、なぜか当然のように私が担任になりました(私も担任したくなかった！)。進学校に進学しながらも成績が振るわず目標を見失いかけていた彼らでしたが、当時から仲間を大切に思う気持ちは他のクラスの何倍、何十倍も強かったことは、43歳になる今でも何ら変わっていませんでした。

茨城、埼玉、神奈川、千葉と関東近県から集まるから同窓会会場は東京にしようと、このクラスのみみんなが久しぶりに再会して食事するなら〇〇(クラスメイト)が料理長をしているお店にしようと、そのお店で同窓会をしたら料理している〇〇が参加できないから二次会から来てもらおうと、時間帯や開催場所などすべて仲間に、そして体調不良の私に優しく計画された同窓会でした。

同じ日、またその翌日に全国各地で開催された「20歳(はたち)の集い」。報道によれば今年の主な対象者である2004年生まれの成人たちは、中学校の卒業シーズンだった2020年春に新型コロナウイルスの感染が拡大し、高校生活の節目となる各種行事がすべて中止、新型コロナの感染症法上の位置づけが5類に移行したのは高校を卒業した2023年5月だったと、つまり、新型コロナに高校生活そのものを奪われた世代であると聞きます。「マスクなしで参加できた今回の式典が感慨深いです。」インタビューにそう応えていた新成人の言葉がとても印象的でした。青春時代に築くことのできなかつた他者との絆をどうか違う形で、自らにしかできない方法で築いてほしい。今私の目の前にいる木二中生たちも、誰にも壊されることのない他者との絆を築くことができるような、そんな青春を謳歌してほしい。教え子たちとの同窓会から、他者との絆について深く考えさせられた1月の三連休でした。